

「竹材制作」実施報告書

庭園においては、立ち入りを制限したり、目隠しをしたりするために竹垣が設置されます。この主要な材料である竹材は、天然の材料です。竹垣のひとつである建仁寺垣の材料づくりのために、自然に生育している竹(マダケ)から製品にするまでの処理方法を学びました。

日時：11月9日(土) 9時～16時

場所：川崎市早野聖地公園及び早野梅ヶ谷特別緑地保全地区

講師：阿部晋也氏 ((株)昭立造園社長、本学非常勤講師) 及び

(株)昭立造園の社員の皆様(7名)

参加者：学生・大学院生 17名(+教員2名)、計 27名

1. 事前説明

作業の内容について阿部晋也先生からご説明を頂きました(図1, 2)。

2. 竹の伐採

手入れされず「竹やぶ」状になっているマダケの竹林から建仁寺垣の立子(壁を構成する部位)に使用できるマダケを選び伐採しました(図3,4)。切った竹は長さ1.8mに切りました(図5)。これが建仁寺垣の立子(割竹)になります。また、胴縁(立子を水平に挟む部位)にする竹も伐採しました。利用するために竹を切ったことによって「竹やぶ」がすっきりしました(図6)。

3. 竹割り

竹を太さ別に選別しました(図7)。今では珍しい菊割(竹を割るための道具)で、竹の末から繊維に沿って押して、縦に4つまたは5つに割りました(図8)。

4. 節の除去と面取り

割った竹の内側にある節を玄翁でたたいて落としました(図9)。さらに、割った竹の縁を「なた」で削って面取りをしました。

5. 磨き

割った立子になるマダケを、「わら」を編んで作ったたわしで磨きました。

6. 完成

竹材を26本横に並べると、施工時の垣の長さが和式建築の基本の寸法である1.8mになります。そこで、26本の竹材を「とっくり結び」で縛って、建仁寺垣に使う立子の完成です(図10)。10束ができました。

(記録: 造園科学科 田中聡)

「竹材制作」実施報告書(写真編)



図1 作業前の説明



図2 竹林での説明



図3 作業前の竹林



図4 竹の伐採



図5 竹の玉切り



図6 作業後の竹林



図7 玉切りした竹の選別



図8 竹を割る様子



図9 竹の節の除去



図10 竹材を束ねて完成